

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和8年2月

（1）女性農業者が精鋭農家を視察研修

2月11日、和泊町の女性農業者組織スマイル&フレッシュが島内研修を企画し、親子28人が参加しました。研修では、労働力確保対策として求人方法やトレーラーハウスを活用した寮の整備状況、家族経営協定や法人化による就業条件整備、アグリノートを活用したほ場管理、手作りによる施設整備を通じた作業効率や品質向上対策、ドラゴンフルーツの新規導入事例、自社選荷選別による品質向上など幅広く学びました。会員は熱心に質問を行い、意欲的に参加しました。また、参加した子どもたちの食農教育にもつながったようです。



（2）現地就農トレーナー研修（野菜）開催で技術向上を目指す

1月30日、新規就農者から、先輩の実えんどう農家に継続して相談できる体制づくりの要望があり、新規就農者実えんどう現地検討会を開催しました。本検討会は野菜部門の現地就農トレーナー研修として実施しました。農業普及課が栽培技術等の情報提供を行った後、先輩農業者、新規就農者2名の各ほ場を巡回し、指導農業士ら参加者で現地検討を行いました。今後も栽培技術の向上に向けて、地域一体となり支援していきます。



（3）よろん和牛女子研修会先進地研修で意欲を新たに

2月15日から17日によろん和牛女子の7名が、沖縄県で先進地研修を行いました。今帰仁村家畜市場では、体重が400kgに近い子牛も多く、1月の与論の価格より高かったです。また、市場には鹿児島県の購買者も参加しており、購買者が好む子牛の条件等について意見交換を行いました。畜産研究センターでは、沖縄県の種雄牛造成や国の家畜改良センターや事業団との連携によるゲノム育種価評価等を研修しました。（株）もとぶ畜産では、自家発酵飼料による肥育方法や島内消費の概要等を研修しました。会員は、子牛セリから種雄牛造成、肥育管理まで幅広く学び、意欲を新たにしていました。



（4）和泊町新規就農者を巡回し、目標達成に向けて助言指導

2月4、6、9、10日に和泊町の新規就農者9人のほ場と畜舎を指導農業士、関係機関と巡回し、新規就農者の栽培管理・飼養管理状況等の確認と現状等について聞き取りを行いました。新規就農者が、認定就農計画の目標達成に向け、栽培品目の規模拡大や単収向上のため施肥管理や病害虫対策、土壌診断、植付時のほ場準備等に試行錯誤しながら前向きに取り組んでいました。指導農業士からも栽培管理、経営管理等について助言指導と併せて温かい励ましもいただきました。今後も関係機関、指導農業士会と連携し、新規就農者を支援していきます。



（5）与論島のさとうきび生産量見込み量修正

2月1日、与論島の令和7/8年期さとうきび生産量見込み量について、当初見込み量から修正されました。生産見込み量は、1月末のさとうきび収穫量などをもとに修正され、当初計画の24,700tから640t減の24,060tとなりました。農業普及課は、さとうきびの生産が事故無く計画的に進むよう、関係機関と連携し、引き続き支援および指導を行っていきます。

(6) よろん和牛女子営農生活設計研修会で夢のある農業を目指す

2月20日よろん和牛女子が営農生活設計研修会を開催し、会員6人が参加しました。まず、営農生活設計の必要性を理解した後、4人がパソコンで営農生活設計ソフトを活用し、2人は手書きで作成を行いました。生活費（家計費、年金・保険、教育費、借入）の把握と農業所得の確保について考える良い機会となったようです。完成にはいたりませんでした。各自家族と話し合いながら一緒に作成していきたいとのことでした。お互いの教育資金や貯蓄などの情報交換も行いながら楽しい営農生活設計研修会となりました。



(7) かごしまブランド赤土新ばれいしょ出発式

沖永良部産ばれいしょ「春のささやき」の出発式が、2月7日に和泊町、8日に知名町で開かれ、市場や流通関係者などそれぞれ100人以上が参加しました。北海道種場産地の不作による種子不足や植付け時の高温多雨、11月の干ばつなど厳しい栽培環境の中、今年は系統共販で8,694トンの出荷を見込んでいます。安定生産の実現に向け、種子確保をはじめ関係機関と連携し取り組んでいきます。



(8) フラワーバレンタインで、花の魅力をPR

2月14日、Aコープ知名店にて知名町4Hクラブによる「フラワーバレンタイン」が開催されました。「フラワーバレンタイン」は、2月14日のバレンタインデーに、大切な人へ花を贈る文化を社会に浸透させるため、業界統一キャンペーンとして2011年にスタートした活動です。知名町4Hクラブはユリ、キク、ソリダゴ、グラジオラス、トルコギキョウなど沖永良部で栽培されている花を使った色鮮やかな花束を販売しました。開始から次々と来店客が訪れ、用意していた70束が完売する大盛況となりました。



(9) 沖永良部島花き品評会で切り花品質を競う

2月4日、和泊町の防災拠点施設やすらぎ館にて沖永良部島切り花品評会が開催され、和泊・知名両町から昨年度より15点多い125点の切花が出品されました。キクなど5部門を品種の特性、病害虫、揃い、草姿、商品性の観点から関係機関担当者が審査しました。最優秀賞を各部門の上位品から会場全員の挙手で選定しました。最優秀賞には、知名町生産者のグラジオラスが選ばれ、病害虫被害もなく、草姿やボリュームが優れる良い切花でした。農業普及課は、引き続き品質の良い切花が生産できるように支援します。



(10) 奄美群島の花き農家が栽培技術について意見を交わす！

2月17～18日に、与論島にて奄美群島花き栽培技術研修会を開催し、沖永良部島から4名、与論島から8名の生産者及び関係機関が参加しました。研修では、トルコギキョウ生産者ほ場視察と室内検討会を行い、品種選定や病害虫対策、栽培方法、出荷方法などについて活発に意見交換を交わす様子が見られ、有意義な研修となりました。来年度は、沖永良部島で開催を予定しており、引き続き奄美群島のトルコギキョウ生産が盛り上がるように支援します。



(11) マンゴー栽培研修会の開催

2月9日、和泊町及び知名町で生産者および関係者約40名が参加し、「マンゴー栽培研修会」が開催されました。本年度の花芽は順調に分化しており、今後の管理について農業開発総合センターの講師から、マンゴーの着果を安定させるための温度管理やポリネーター導入、カイガラムシ防除等に関する栽培ポイントが説明されました。これまで順調に生育しており、研修会を通じて情報交換を行うことで、令和8年度産マンゴーの生産に向けた意欲が高まりました。

